

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月22日

## 【評価実施概要】

事業所番号	872400262		
法人名	有限会社SESケアネット		
事業所名	あっとホーム きりん荘		
所在地	守谷市立沢950-1 (電話) 0297-20-0733		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成19年11月7日	評価確定日	平成20年3月24日

【情報提供票より】(平成19年10月18日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年3月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤7人, 非常勤2人, 常勤換算5.5人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	1階建ての	～ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	1,000 円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

### (4) 利用者の概要(10月19日現在)

利用者人数	9名	男性 1名	女性 8名
要介護1	3	要介護2	1
要介護3	2	要介護4	3
要介護5		要支援2	
年齢	平均 86.4歳	最低 67歳	最高 101歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	守谷慶友病院
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

設置法人は、高齢化社会の中、地域で多くの利用者のニーズに応えるため、特別養護老人ホーム、グループホーム、デイサービスやショートステイの老人関係の事業を運営している。  
管理者は福祉の専門分野での経験を活かし、ホーム全体の状況を把握するとともに、サービスの向上に職員とともに熱意を持って取り組んでいる。  
終末期の対応に取組むなど、関係機関と連携するとともに、専門性を活かした利用者本位のサービスを行っているホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>定期的な健康診断が課題となっていたが、訪問医による週1回の往診の他、変化時には月に1度の受診等により対応しており、受診記録も保存している。</p> <p>介護計画は実施期間を明示するとともに、モニタリングを実施し、変化がない場合でも家族を交えてアセスメントを行い、改善している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者はミーティング時に、外部評価の意義を職員と話し合い、外部評価の課題を改善している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、委員から積極的な意見や要望を聞いている。会議の議事録を作成し、ミーティング等で職員に報告するとともに、意見や要望を検討し、サービスの向上に役立てている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>月に1回、ホーム便りを家族に送付して利用者の暮らしぶりやホームの動きなどを報告するほか、家族来所時に健康状態や金銭管理について報告し、領収書を全て家族に渡している。</p> <p>家族来所時に情報交換を含め、意見や要望等を聴き、運営推進会議等に反映させている。</p> <p>また、同時に家族を交えてケアプランのカンファレンスを開催し、納得の上、確認印をもらっている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の老人福祉施設や市主催のイベントに積極的に参加している。また、自治会主催の音楽会やお祭りなどにも参加している。</p>
重点項目④	

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員が認知症を理解するとともに、地域に根付いたグループホームのあり方を学ぶ学習会を通して、独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は月1回のミーティングにおいて、ホームの方針や目標を職員に示している。 また、職員間で毎日の申し送り時に理念を確認し、共有している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の老人福祉施設や市主催のイベントに積極的に参加している。 また、自治会主催の音楽会やお祭りなどにも参加している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者はミーティング時に、外部評価の意義を職員と話し合い、外部評価の課題を改善している。 外部評価の結果、課題となった健康診断の受診の対応や介護計画の実施期間の明示及び介護計画の見直し等を改善している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、委員から積極的な意見や要望を聞いている。 会議の議事録を作成し、ミーティング等で職員に報告するとともに、意見や要望を検討し、サービスの向上に役立てている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の相談員派遣を依頼するとともに、地域包括支援センターや市の研修会に介護支援専門員が参加しており、情報交換等を行っている。	○	市との連携を図るにあたり、介護支援専門員ばかりでなく、管理者等の職員も行き来ができるよう取組むことを提案する。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、ホーム便りを家族に送付して利用者の暮らしぶりやホームの動きなどを報告するとともに、家族の来所時に健康状態や金銭管理の状況を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来所時に情報交換、意見や要望等を聴き、運営推進会議等に反映している。 また、介護計画を作成する際のカンファレンスに家族を交えて意見交換を行っている。 介護計画書の作成後に家族に説明するとともに、確認印を押印している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が異動する時は、事前に利用者や家族に知らせている。 また、新人の職員には、ホームの雰囲気等に慣れるまで管理者がサポートするなど、利用者の混乱を最小限に止め、馴染みの関係を築けるよう配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人の職員には、ホームの雰囲気になれるまで、管理者がサポートしている。 また、設置法人において、全体研修を行うとともに、職員の経験等に応じて、育成計画を立てており、認知症研修会や認知症実践者研修会等が受講できる体制を築いている。	○	職員が研修を受講した際の報告書を作成することを習慣化させるとともに、その内容を職員全員に周知できる体制づくりを提案する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回、市が主催する事業者連絡会議や茨城県老人福祉施設協議会の研修会、他施設との情報交換や見学会を実施するなど、他の事業所と交流している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望があった場合は、リーダーと相談員が自宅を訪問し、性格や生活歴などを聴取するとともに、ホームの理念やケアの内容を説明している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は毎日の生活の中で利用者と信頼関係を築きながら、人生の大先輩として敬い、見習う気持で支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の特徴を把握するため、小さな変化も記録に残すなど、職員全員で利用者把握するよう取組んでいる。 また、利用者の意思を尊重し、意向に沿って、支援できるよう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は相談員が収集した情報や利用者、家族等の意見を聞いて原案を作成し、担当者を中心に家族や職員の意見を聞いて、作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は短期3ヶ月、長期6ヶ月ごとに利用者の変化に応じた見直しを行っている。 また、家族の来所時にカンファレンスを行い、利用者の状態を説明するとともに、同意を得ている。 ケアプラン委員を設置しており、月1回、利用者全員の計画書に目を通した後、介護支援専門員が最終確認している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携加算を取得するとともに、利用者や家族の要望に応じて終末期の対応に取り組んでいる。 また、緊急で対応する場合には、併設のショートステイを利用できる仕組みがある。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週訪問医による往診のほか、月に1回診察が受けられる体制となっている。 利用者の状態等に変化が見られたときは、検査を受け、検査結果を家族等と相談するとともに、必要な場合は精密検査を受けられる体制となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員はホームが、利用者の重度化や終末期の対応を行うことを理解しており、利用者や家族の要望に応じて終末期の取組を実践している。 利用者の家族や医療関係機関と連携を密に行い、病状等が急変した場合は、かかりつけ医より説明を受けられる体制を築いている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入社時の新人研修で、接遇や高齢者への対応、個人情報の取り扱いなどを研修している。 また、採用時に同意書を取り交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりの体調やペースを把握するとともに、希望に添った日々を過ごせるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫した食材で料理を作り、食の話題を投げかけるなど、楽しい食事時間を共有している。 得意料理のある利用者は指導者となり、他の利用者と職員と一緒に調理している。 食事の後片付けは職員と利用者全員が協力して行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日時や回数の取り決めはなく、利用者一人ひとりの希望に応じた入浴支援を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの得意なことや楽しみごとを把握し、力量にあわせた役割や気晴らしが出来るよう支援している。 利用者は洗濯物たたみや針仕事、編み物、花の手入れなど、意欲的に取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を聞いて、外出の計画を立てており、利用者は外出を楽しみにしている。 また、利用者が突然、散歩を希望した場合でも、希望に合わせて支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は中庭を開放し、自由に出られるよう配慮している。 利用者の外出願望を察知した時は、止めることなく、職員が付いて、利用者の安全を確保している。 また、入居から日が浅く混乱が見られる場合は、家族に事情を話し、鍵をかけている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡網を作成するとともに、防災訓練計画予定表により、年2回消防署立会いの下に防災訓練を実施している。 また、災害時の避難方法や誘導についての勉強会を施設内で実施している。	○	防災訓練を行う際には、近隣の方々に参加を呼びかけるなど、災害時に協力を得られる取組みを提案する。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	塩分制限のある利用者の献立は、管理栄養士に相談している。 日常的には栄養士の職員から指導を受け、栄養バランスや水分量に配慮した食事を提供している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	置物や掲示物にも季節感を取り入れるなど、利用者が落ち着いて暮らせるよう配慮している。 また、和室の段差に腰を掛けて思い思いに会話したり、冬にこたつをしつらえるなど、居心地良く暮らせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は自宅で使用していた馴染みの家具を自由に持ち込み、居心地良く、安心して暮らせる配慮をしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。